

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム中山の里
2階
所在地
(県・市町村名) 鹿児島市

記入者名
(管理者) 永野 洋子

記入日 平成 19 年 10月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○基本理念そのものが地域で暮らし続けるための理念で、事業所の原点です。○あなたがあなたらしく生きる事を家庭的な雰囲気の中で暖かくサポートいたします○あなたのあがままを受け入れて地域の中で普通の暮らしをおくります。○仲良く楽しく暮らせるお手伝いをします。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○基本理念を毎日の生活の支えとして、管理者、全職員一丸となり利用者の自立支援に取り組んでいる。 ○ホーム内に掲示してあり毎日の申し送り時には声に出して唱和している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○基本理念を毎月のホーム便りに掲載しご家族の方にも基本理念の実践に取り組んでいる事をお知らせしている。 ○地域の掲示版に貼らせていただき地域の中暮らししている事を地域の皆さんに知ってもらっています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○夏祭りや敬老会等通じて地域の方々に声かけて気軽に参加していただき入居者の皆さんとの交流を楽しみにして下さっています。○入居者職員はいつも笑顔を絶やさず、来られる方も気軽に来られ楽しんで頂いています。 ○隣の畑から新鮮な野菜、花の頂き物があります。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○職員と共に夏休みのラジオ体操参加、地元の夏祭り参加、保育園との交流と常に地域の中で生活していることが実感できます。○地域の中や隣のグループホームと交流もあり地域の一員として孤立することなく生活しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○入居相談、見学来訪者にも全職員気軽に相談できる体制があります。 ○運営推進会議を通して町内会長、民生委員婦人会長様に地域の困りごとなど伺い、相談に乗ったり地域に貢献できるよう交流を深めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○サービス評価の意義や目的を職員会議やスタッフ会議で伝え全職員で取り組みました。○評価の意義を理解して職員共々サービスの質の向上と自立支援を目的に自己評価に取り組みました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○地域の町内会長、民生委員、婦人会長、ご家族、入居者等に参加を頂きサービスの実際や行事等の報告を行い、ご意見など伺っている。 ○自己評価外部評価の報告やホーム内外の行事参加や利用者さんを交えての意見交換など真剣に和やかにを行いサービスの質の向上に役立てています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○解からないことや、困りごとは電話で伺ったり、直接出向いて相談しております。 ○介護相談員はいつでも受け入れ可能、現在まで2回来所頂いています。利用者さんが相談された事は検討して対応します。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○研修には参加人員が限られていたり、少人数の職場で参加できなかったりで管理者が学習してきてスタッフ会で話しをしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止、身体拘束廃止推進研修会や認知症介護研修他に参加し高齢者介護について勉強会をしている。 ○身体的なことのみでなく日常の言葉(言葉の暴力)にも常に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約前、ご家族やご本人に見学がてら、来所いただき不安に感じる事、分からない事などないか伺っています。 ○契約時は重要事項説明書に基づき充分な説明を行い納得を頂いてから契約をかわしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○利用者にも自分の意見を言えるように常に伺っている。介護相談員来所の時にも本音で話をされるので職員も真摯に受け対処します。○利用者のみなさんはお世話になっているのでと遠慮することなく何でも言える雰囲気があります。職員にも些細な事でもいえるように又言うてくださるようお願いしています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○毎月ホーム便りを発行、生活の様子や写真、会計報告、病院受診等毎月報告しています。 ○月2回居宅療養管理指導で病院の往診あり、病状報告及び請求書の送付を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ご家族の意見苦情はホームをよりよくする貴重な意見として真摯に受け、すぐ対応できる事は相談のうえ対処する。苦情箱の設置あります。○運営推進会議や普段の面会時も気軽に意見が言えるように場面づくりをしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月の処遇会議、職員会議、スタッフ会議は運営者全職員の参加で職員の自由な意見や提案を聞く機会でもあり、運営に反映出来るようにしています。 ○管理者は運営者と意思疎通を図り運営、経営ともに伸びるよう努力している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○利用者の個々の生活を支えるため職員の急な休みなど、柔軟な体制が取れる勤務体制が組まれています。 ○管理者は家族や利用者の相談にいつでも対応できるように心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○職員の離職、新規採用時は、利用者に不安感を持たれないよう紹介、いい関係作りが出来るよう業務を補ったり職員間の協力体制がある。 ○運営者は日頃から利用者職員といい関係が出来ており業務はスムーズにおこなえる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○谷山地区は月1回の勉強会があり、職員は進んで参加している。○県、市、他の研修会は参加した職員により、報告してもらい日々の業務に生かしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○谷山地区は月1回の勉強会があり、職員は進んで参加している。又近くに同業者が多く、運営者職員は日常的に交流がある。 ○人材育成のため定期的にグループホームの勉強会があり質の向上に役立てている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○運営者は職員の悩みや相談ごとをいつでも受け対応している。何でも相談できる体制がある。 ○管理者は個々の職員へこえかけを行い相談しやすいようにして居る、勤務時間に退社できるよう職員間で協力配慮しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○運営者は日頃より職員と一緒に働いたりして職員の努力を正しく評価している。 ○職員の資格取得に向けた支援を行ない取得後は運営者より評価がある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○相談の時点でご家族ご本人と逢い、何を求め何が困っているかを伺い不安の訴えは出来るだけ早く把握し解決するよう努力している。 ○本人の思い家族の思いを良く聞き今までの暮らしと変わりのないと思えるように、傾聴と受容につとめる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○見学来訪時にはご家族の求めている事、不安な事、日常生活の困りごとなどゆっくり話を伺うように努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	○相談来訪時は切羽詰まった状況の時が多い。グループ ホーム満室の時は、同じ敷地内にある通所介護を紹介したり、 近隣のグループホームの紹介をしている。 ○通所介護はお泊まりもできます。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	○入居の希望があった場合は本人と家族身近な関係者 にホームの見学をして頂き、納得して頂ける様に入居者と一 緒にお茶の時間を過ごしたり、レクリエーションの時間を過ご したりしていただいている。 ○職員は入居後暫くの間は不安や緊張の中で過ごされて居 る事を思い言葉掛けや色々な場面で配慮している。入居者 の皆さんにも協力を頂いています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	○年間を通じ様々な行事は話を伺いながら行事食を作り教 えられたりしながら、楽しく日々を暮らしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	○ご家族は利用者の生活に欠かせない大切なメンバーであ る事を、常々お伝えしている。面会時の笑顔に職員は安心 できます、家族の力は大きいです。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	○利用者は家族の事をいつも思い気に掛けていることをご 家族に伝えこれまでの関係が(絆、役割)より一層深くなって いくように 支援しています。 ○外出のときには家族へお知らせして同行していただくこと もあります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	○カラオケ友達や外食友達とのお付き合いを大切にして自 由に出かけるようにしている。 ○5分前のことも日常の事もすぐ忘れるがその場の事は話合 えるのでいい関係を保ちながら暮らしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	○職員は利用者の不安な気持ち(これからの事を考えると心 配と)をしっかり受け止め基本理念に(仲良く楽しく暮らせる お手伝いをします)添い孤立せず支えあうようにつとめていま す。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○病院に入院され退院できなかった方にも面会に行き、いつもつながりを持ち続けている。 ○亡くなられた方の家族もいつまでもお付き合いしたいと訪問してくださる家族もあります。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用者の思いや暮らし方に付いてケースカンファレンスで話し合ったり本人に参加して頂き直に話を伺ったりして本人の意向を把握するように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入居者の皆さんとは日常的にどのような暮らしをされていたかそれとなく伺いその方に適した暮らし方を考えて過ごしていただいております。が過去の事は余り立ち入られたくない方もおり臨機応変に対応している。○職員は一番充実していた頃の出来事を話題にしたりして利用者の理解に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○毎日の記録引継ぎから心身の状態、活動状況、生活リズム役割など総合的に把握している。個別のカンファレンスや現状態を話し合い記録、全職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○職員は利用者の視点に立って考えたり抱えている課題について気づいた事を出し合い記録して計画を作成している。ご家族にも意見を伺ったり入居前のケアマネにも相談している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○状態変化時には（入退院等）サービス担当者会議を開き、現状に即した計画を立て対応している。 ○医師の意見、ご家族の意見本人の要望など総合して本人がより良い生活が出来るように計画している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○日々の記録引継ぎで状態把握に努め変化があれば、話し合い情報の共有に努め実践や計画に生かしていく。 ○個人の支援記録、日常の記録、排泄、食事記録等を活用し実践に生かしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○本人や家族の意向を大切に必要に応じて対応できている(家族に代わる受診同行や外出援助など) ○「たすけあい鹿児島」のデイサービスが隣にあり日常的に交流がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○警察、消防、民生委員、自治会長様とは避難訓練、運営推進会議などで連携しながら支援を頂いている。 ○地域の夏祭りや夏休みにはラジオ体操に参加して子供さんたちとも仲良くなれました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○利用者の希望で訪問マッサージや訪問歯科診療を受けています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○地域包括支援センターには挨拶に行き、運営推進会議等の出席をお願いしています。入居相談等もあります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○利用者ご家族の希望する医療機関で継続受診できている。居宅管理療養指導で定期的な往診をうけている。 ○基本的には受診や通院はご家族より支援を頂く(緊急時や不可能な場合は職員が同行する) 重要事項説明書で同意をもらっています。		

鹿児島県 グループホーム中山の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○協力医療機関との定期的な受診適切な投薬、治療ができています。 ○主治医の助言指導を参考にして職員も理解、ケアのあり方を学んでいます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○協力医療機関の看護師は気軽に職員の相談に答えてくださり医師への連絡を取ってくださる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○入院されたら支援情報を医療機関へ提供、面会に行く、 ○入院先の医療機関と連携をとり、症状、経過、退院についての情報をもらい早期退院に向けた支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○病状悪化となりグループホームで対応出来なくなった場合の事は家族と相談、家族はみとりまでを希望されるが、現在の職員の力量では困難、医師の協力を得られる方も居るがご本人にとって最良な方法で対応していきます。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○利用者が高齢のため起こりうる緊急時の方法を職員は地域の消防署隊員から講習を受けている。(通報訓練、骨折、心肺蘇生法等) ○年々重度化していく利用者の今後の事は家族、主治医と常に連携をとりながら変化に備えています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○特別養護老人ホームへ移られた方、老健施設へ移られた方とは行き先との情報交換要して安心して移られた。 ○グループホームでの生活が困難になった場合家族や本人にかかわるケア関係者で十分な話し合いを持ち納得が得られるようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○処遇会議職員会議、スタッフ会議で常にプライドを傷つけない言葉掛けや態度について話し合いを持っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○利用者の意思決定を尊重して援助している、(入浴、お出かけ、電話取次ぎ) ○利用者の個々の理解できる力に合わせている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○利用者の要望やその時の状態に合わせ活動の声をかけをしています、毎日のように外出を希望される方も居ますが偏る事のない様平等になるように努めています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○毎日の更衣等自分で服を選びカラフルに職員の目を楽しませてくださる方もいます。染毛、カット、パーマ等以前からのなじみのお店に行かれる方もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○いつも食事が美味しいと一緒に作りながら言ってくださいます。 ○ゆっくり時間をかけて楽しみながら一緒に頂いております、献立の段階から話し合いをして買い物、準備参加して貰う日もあります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○お酒類はアルコール依存症になり暴力を振るわれ、精神病院入院、退院されて来られた方もいる為日常的にはだしていません。	○ ○寝酒程度(たしなむ程度)とご家族は言われたが大酒のみで職員や入居者に暴力を振るう方がおり恐怖からやめた職員もいた。

鹿児島県 グループホーム中山の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○昼間、夜間の状態に合わせ布パンツ、リハビリパンツの使い分けをしている。 ○時間誘導や声かけ水分補給、腹部マッサージ等心がけている。 ○医師と相談しながら緩下剤の調整もしている。訴えられない方は動作や表情など見ながら誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○個人の希望にあわせ時間の調整をしている。夜8:00希望の方は8:00に入られる。お友達と入りたい方は一緒に入ってもらっています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○生活のリズムが出来るように昼、夜の更衣を支援しています。 ○日中の様々な活動の中で快い疲れで安眠できるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○囲碁、将棋、ピアノ他相手に合わせ支援している。 ○個人の能力に応じたお手伝い(掃除、家事、洗濯物干し、タタミ)計算、漢字などで力を発揮もらい職員は励ましたり、感謝したり言葉を伝えています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○本人の希望、家族の意向で個人でお金を所持されお買い物に職員と同行しています。(大体2000円以内) ○皆さんお金の大切な事は充分分かっており決して無駄使いはされません。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○天気のいい日はドライブや買い物と交代で不平等にならないように出かけています。 ○隣にデイサービスがあり交流もしております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○春はサクラの花見、夏のソーメン流し、秋のコスモス見学は合同で行い個別処遇では新鮮なお刺身やお寿司、焼肉等をお出掛けをかねて食べに行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○携帯をもたれて入る方もいる。電話での家族との交流は大歓迎、手紙もお友達に書かれる方も入います。 ○電話の利用、取次ぎは自由に出来ます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○面会時間の制約は無くご家族や友人も都合のいい時間に来て下さっています。居室で過ごされたりホールで皆さんと過ごされたりお茶を楽しんだりされています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○中山の里でも身体拘束ゼロマニアルに取り組んでいる。職員は理解して日常的に身体拘束をしないケアにとりくんでいます。利用者の人権、尊厳のある暮らしを支援しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○以前鍵をかけたら利用者の方が必死で出ようとされた、方針を変へどこからでも出られるようにオープンにしたら落ち着いて過される。○外出されそうな時は声かけて職員と一緒に外出、先取り介護に心がけています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○職員は常にさりげない介助で利用者の所在の確認をしている。○日により時間により落ち着かない状態があり集団で行動される事がある如何しても落ち着かないときはドライブで公園に行き思いっきり遊んでもらいます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○薬や洗剤、刃物などの保管場所が決められており職員は守っています。 ○以前アルコール依存症の方が毎晩包丁を探され職員は怖い思いをした、しっかり始末して有ったので事なきを得た、教訓になりました。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○救急救命講座、避難消火訓練を消防署にお願いして講座を受けている。職員は利用者の状態変化を把握して申し送り等で情報を生かしている。		

鹿児島県 グループホーム中山の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○職員は定期的に応急処置や緊急時の初期対応について講習訓練を受けている。谷山南分遣隊より応急処置を学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○地域の消防署へ協力をお願いして、避難訓練、通報訓練、初期消火の訓練を年2回、自主的に2回行っている、利用者の皆さんにも命が一番大事であることを伝えています。近所の方々にも消火避難訓練時は参加をお願いして協力体制が出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○ご家族来訪時に状態説明、起こりうるリスクについて職員が説明して、ご家族の意向を伺い記録。職員間で共有し安全に威圧感の無い日常に努める。主治医とも連携しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○日々の健康観察(バイタル、排泄、食事量、皮膚状態)や入浴時に異常は無いかなどに観察し早期発見に努め情報の共有をして対策につなげる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○服薬については個別に手渡し、服薬したか確認している。 ○与薬時は日付け、名前、用法など確認している。 ○病院からの情報、薬局からの情報を職員は確認し目的と副作用についても承知し用量用法をまもって居る。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○排便チェック表を作り記録している、排便困難者は主治医と相談して運動、水分補給、繊維質の摂取に努めているがどうしても出ないときは緩下剤の使用もあります。庭に出て散歩や運動に心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○毎食後の口腔ケア(歯磨き、義歯洗浄、舌洗い)を習慣として支援している。起床時のうがい外出帰宅後のうがい手洗いの励行をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○一人ひとりの嚥下状態に合わせて軟らかく煮たり刻んだりしている。○摂取量は記録して有りご飯が進まない時は主治医に相談エンシュアリキッドを飲んでもらっています。いつもゆっくり良く噛んでをモットーに美味しく頂いています。○定期的に体重測定を行い健康維持の目安にしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○感染症に対するとりきめがあります。インフルエンザについては、ご家族、主治医と相談早目の対応をしています。うがい手洗いを励行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○包丁まな板等調理用具は使用後食器乾燥機に入れ収納場所に入れ保管しておりいつも清潔な物を使用している。○包丁まな板等調理用具は定期的に漂白剤で消毒している○食材はその都度買い物にに出かけ新鮮なものを使用、残り物はないように盛り付けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○庭には野菜、花など植えて有り気軽に入りやすい雰囲気です。○玄関内外には花を活け暖かく迎える雰囲気があります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○一歩中に入ったら台所や食堂(ホールも兼ねる)が有り全体が見えて安心できます。○玄関入り口には季節の花が飾られている、壁画も季節感を感じられるように工夫している。○トイレ、浴室など水回りは汚れやすい事を職員は理解し常に清潔に心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○タタミの間(冬はコタツ)が有り廊下にはソファを置き、仲間同士で話しが弾んでいます。一人に成りたい時には居室でゆっくり過ごされています。		

鹿児島県 グループホーム中山の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○ご家族が利用者に配慮され色々もって来られるが何も無いほうが安心できるのか全部クローゼットにしまい込んでいる方もいます。本人の希望に添っています。 ○日中は布団をたたみ居室に塵が放置されないように目配り気配りをしています。掃除、洗濯物の片付けはコミュニケーションをとりながら行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○朝一番窓を開け新鮮な空気を入れます。職員は利用者に伺い冷暖房をつけます。自分で付ける方もおります。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○ホーム内は段差が無く廊下の壁には手摺がついて歩行の自立安全に配慮されている。手摺で歩行訓練や自立に向けた運動をしている方もいます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○居室やトイレ共用の所には利用者が分かりやすいように飾りや張り紙をしている。 ○居室には名札や印が付いている。時計、カレンダーは利用者の皆さんが目につきやすい場所に設置してあります。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○天気の良い日は日光浴を兼ねて園庭でお茶を飲んでゆっくりのんびり過したり園庭での活動も行っています、庭は広く散歩コースです。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

鹿児島県 グループホーム中山の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 入居者様の個性、状況にあわせ個別にきめ細やかなまごころ介護に取り組んでいます。24時間安心があります。
- 個々の嗜好、栄養面健康面等考慮し美味しい食事作りに職員と一緒に励んでいます。
- 個別処遇週間を設け行きたい場所で食べたいものを食べられます
- 緑に囲まれ皆さんが伸び伸び暮らせる環境があります。